



五
 初
 五
 五
 第
 五
 部

特 別
 凡 4
 3979
 5



北 4
3979
5



和州舊跡函考目錄

第五卷 添下郡

山城大和國境

佐紀山

成務天皇陵

孝謙天皇陵

日葉酢媛陵

夏

超昇寺付 真如法親王事
念佛堂付 清海法師 ○曼陀羅 ○香烟小佛

牟城宮

神功皇后陵

鷹塚

高野

狹城池付 樹化雉成



昭和二十七年三月十八日 求

洞小佛 ○ 廢之事 ○ 善剗朝臣寺

菅原付 菅原氏 ○ 菅原池事

菅原天神社 菅原寺

菅原伏見陵二基 田道間守基

伏見毘 真福尼院付 釈山能

事

靈山寺 新田部親王陵

唐振提寺付 金堂釈迦 ○ 講堂 彌勒 ○ 食堂

○ 經藏 ○ 宵索堂 ○ 御歇堂 ○ 鑑真和尚

○ 覺盛和尚 ○ 舍利事

藥師寺付 金堂藥師 ○ 造花會 ○ 講堂 寂勝會

○ 般若經會 ○ 万燈會 ○ 西院 ○ 東院 觀音

○ 東塔 ○ 西塔 ○ 食堂 ○ 傳法院 ○ 鎮守八幡

社 ○ 佛跡石 ○ 黑筒 ○ 拍子堂 ○ 降面 ○ 每真事

御在所 勝間田池

勝間田秋橋 羅城門

藥園宮 植槻道場付 觀音事

長濃山二基陵 犬塚

赤檮基 松尾寺付 鎮守社事

矢田寺付 地藏 ○ 滿米上人 ○ 小野篁事

東明寺

川上陵

西大寺 付 四天王 ○ 觀音堂 ○ 愛染堂 ○ 塔礎

○ 眞正菩薩 ○ 道場會 ○ 光明真言會 ○ 并

眞 ○ 豊心丹 ○ 西大寺柳の事

西隆尾寺

秋篠寺 付 香水井 ○ 後七日御修法 ○ 并眞事

秋篠

高山八幡社

外山里 村國墓

延喜式神名帳

和列舊跡函考第五卷

流下郡

山内國のわがて大和國の南ありあま乃さう

ひらうひめ村よりまらう乃わあり

萬景 そら川や波や乃ま河をわうあう山越へ山博の

菅木の原をわうあり

又當代流上郡春日乃境民まがらうて幸良

とよりひめ人の流上流下の郡をよき良よ

そそゆめ先の平城宮又古録よあう乃菱

系元号新書よ奈良乃古系植榎らわう

乃而とも流下郡あり

平城宮

平城宮の又ゆかりの波乃文ともいふゆへに宮の東に流

上郡西の流下郡あり 三代 其後延喜寺村二条あり
 而も方八町あり今も九条乃地の名あり 神皇正統記 柳舟渡
 宮乃監觸の元明天皇和洞元年九月まがらうよ沙
 事ありて奈良と巡幸ありしと云ふこと成して後へ
 此地を觀望あり十月伴勢太神宮に於て流下
 事成りてひねの奉幣使の正四位下大上皇を
 一月當系地の臣九十餘家と卵より此の地を
 料として布又米等と給ひて後地祭とせしむ
 流下と云ふことありて同三年三月平城宮より
 一海内田賦の爲めよの正二位石上朝臣磨あり
 乃後元明天皇の養老五年十二月よりこれに
 元正天皇即位とてこれを給ひしなり 聖武天皇
 此ゆづりとしてけしむ給ひしは此等天平十二年十

二月於て流下の事又あり伊勢太神宮ありびよ七
 道乃後神の幣と有り新系の事成はせし給ふ
 比時みち乃ちこれ宮にありて其後とてこの事
 びまがらうの山城國世山乃ひがしと云ふ事と西と
 右系とてつ乃山乃東の川に橋とつけられし同十
 六年二月恭仁宮 此の系の 乃き流下乃大楠を
 と雅波乃宮よとてつめ流下を流下と云ふ事
 是ありしなりと云ふ事同十七年四月徳目文と
 なる改官ありしに流下はこよはごめ給ひるや
 之を宣下ありしと云ふ事同大寺乃僧に勅ありしは
 其ありの系と流下と勅を賜ふ事なりし儀なり同
 して飲磨平城宮と云ふ事と恭仁宮の市人
 と目よりて平城宮ありしに流下平城宮

け陵よ納もるやるり 日本 延寶七年迄九一千四
百九十年り

鷹塚

神切皇后乃陵の南よりびくあり

鷹塚の儀よびく金乃鷹とくけ給ひしありは
名ありとぞゆふそしゆ色あはば豊前國宇佐郡
乃八幡菩薩ハ馬城峯よ石狛権現やあはるき
乃山の頂よ三門乃石やありそれより金乃光と
とあり給ひし六仁徳天皇勅とててき光乃も
や成んせしわ給ふきバ金色乃鷹や現し給へる
そらよ寶殿とあはくらしききるより善田八幡の縁
起よんくより光成りやハ八幡菩薩ハ神切皇后
乃御子ありとの皇后の陵よ八幡化樂乃金の鷹

とくけとあへて世母子乃ありあはび成りたるよ
やう後乃人のあはくあはる河のみ

孝謙天皇の陵

人王四十六代孝謙天皇乃陵ハ大和國高市郡
作貴郷高野山陵也 本紀 慶龜元年八月よ
物洲より給ふ也年又十三 本紀 日付陵よ納ありし
より高野天皇と名又寶字孝謙稱徳天皇也
色りなる 紀 押け高野とゆふハ故式部以從二
位鈴鹿王乃田宅とありしを勅よりりては陵の地
とありしより給ふ也 本紀 延寶七年迄九百十年迄
四くくゆえり

高野

高野の文乃長皇子と志貴皇子依紀乃文

よもむひめそび給ふ歌

万葉 秋されハ今もなる如き徳は麻呂の如く野の衆人
見らるる高野乃野造乃乃日本系塔白妙の塔なりけ 文選

日葉醜媛陵

日葉醜媛余乃陵ハ校木之寺間陵也 古史 ありて書
依貴山もやありクむ只校木の名よりて書
作り後の人西くささん事成す川の之柞日葉
醜媛余ハ景行天皇乃母也丹波主王乃むとわ
あり 紀 事 出仁天皇二十二年七月よかられさせ
給ふそ乃をぬりする乃時群郷とめして勅あり
ゆけらんと陵乃あがりよ埋めら奉らむくの法
ぐういけにクハせんや野息宿禰とてあて奉り
郡ハ倭彥余乃陵といたる人と埋めりいとい

ゆいそくハ末乃世よわるため成はるる
れつら如雲ふ乃如秋一百人とめをせりて人馬
所ハ一ノ種く乃如のころ成すのへくさなり
けむ乃如といたる人よりえく陵よむとてむよ
小乃かげなりまへさんや天皇大ノ觀感御
て末の世のあむともあまよりけ陵とて植植乃
あよ作りけ勅切よりりて本の姓をわくあ如
如と給ふ是より出教連等ハ天皇孫をうぬるの
りて成やまより 日本

校木池

校木池ハ倭水乃池と云ふ譽田八幡縁起曰神
田皇原池上よなるぬりなる也云々ハ池上乃
池といふと水と池とあやまりてゆめや云々

物よりありとのせうきさうりはわう乃をれ
の何りさ由とよもころりる日物もや又隆縁
中僧ハ伏見乃仙人ノ物とぞや侍り
菅原天神
顯注
密勘

菅原院ハ之邦乃由所是ありそふ志書ね事とを
菅原相ハまやこく流乃らるる後ハ平安城ありて
お流りあり兵山のやららる邦ありて聖廟あり
死とて或説あり

菅原寺 寺領三十石

菅原寺ハ又喜光也ともいふ行基菩薩の造像
して流院乃坐像と安懸とてせ聖氏天皇行
喜光也の物号あり元和元年仲のともある或和尙
で盤纏とてつらきつらきつらき僧く物なり也

行基の志氏いほその西大郡の人あり天平十七年
大僧正の位に授けらるる任行基よりしつらきり天平
二十一年四月大菩薩とて授けらるるハ新書あり
より又の流あり靈異神驗ありとよ物きくお侍り時
乃人行基菩薩とて類聚國史あり同年二月二日
はちの東南院ありとつらきつらきつらき年八十二
己延寶七年はち九百十六年

新初撰
伊弉山乃物とてつらきつらきつらき造戒乃款
菅原伏見陵二基

後

菅原伏見乃之秋ハあるとあるあり又
これハ葛上郡乃伏見とあるあり
乃伏見よりハ水物殿の山ハ三輪山
なり
乃伏見よりハ水物殿の山ハ三輪山
なり
乃伏見よりハ水物殿の山ハ三輪山
なり

真福屋院 伏見屋の南

真福屋院ハ同在ハ弘文院
あり信長山ハのかりて
授け一ツハ乃福院と稱ふ
乃福院ハ弘文院
乃福院ハ弘文院
乃福院ハ弘文院

日小鎮とゆぐされハ行
乃福院ハ弘文院
乃福院ハ弘文院
乃福院ハ弘文院
乃福院ハ弘文院
乃福院ハ弘文院
乃福院ハ弘文院
乃福院ハ弘文院
乃福院ハ弘文院
乃福院ハ弘文院

寛永永年中より同領二百石とて結ぶる
寛永入きの初遊上の教ありの員間寺西北より流
くくあり

是より西より靈山寺あり進分せしむるの如し
又は屋院乃南より新田親王乃陵あり

靈山寺 寺領百石

鼻高山靈山寺ハ行基菩薩乃草創鼻高とて
より山号あり又波羅門菩薩と行基菩薩と
ドめてあひ流る乃時馬山乃新田の寺より
て一の徳次よりとてはしありあり
秘傳と安西より零落乃後泊安二年再興あり
西より行基菩薩乃室乃流あり

新田親王陵

新田親王乃陵ハ後ハ蓬萊とて親王然るあり
なりしハ振徳寺の回化よりありとて親王ハ天
皇乃河子ゆ母ハ五百重姫日本紀 天平七年より
終ふそれより延寶七年中より九九百四十六年
唐振徳寺との名ハ建初律寺とて孝謙天皇乃勅
額よりけりハ唐振徳寺の名あり縁 柞苗寺ハ天平
寶字三年八月鑑真大僧正聖武天皇試せしめ
所より河野割ありけりハ新田親王乃回化
よりありとて大僧正より河野宮城とてなりし
以門為心とてハ河野宮城とてハ延寶
七年より九九百廿一年

徳堂

▲金堂にもありの僧如實（釈）とて著く丈六の釈迦
の像然とて（釈）其の巻中よ千佛とて著く皆後
よ二千餘三千佛と繪ぐた脇乃座す此集ハも
ろこの思徳の作た脇の子と觀る菩薩ハ天人の
所造なり（起）

▲講堂ハ平徳の朝集殿と於て造りあり所造の
薩夜侍の二菩薩もろこの法力乃作なり（釈）

▲食堂ハ藤乃仲公の家と於て造りあり（釈）
經藏ハもろこの義靜建立して佛舍利（書）
菩薩經論寶物等（書）とて納り（書）賢璟法師
造議師家のつあよとて大慈四千二百卷と書寫
して納り（書）

▲寶索堂ハ藤清河家と於て造りあり（書）
五十四卷大慈
八卷寶索像女

八部神象（起）とて造りあり（書）

▲淨觀堂ハもろこの思徳（起）に於て鑑真の遺像
とて造りあり（起）

▲西方院の阿彌陀堂ハ中興開山大悲菩薩乃廟也

▲開山鑑真和尚ハもろこの揚列龍真寺の大徳ありも
ろこの天寶二年入唐乃僧（起）榮觀業行ハ和尚とて
めて佛法東流ハ我本國よありとて是と傳
ゆる師也（起）和尚日本乃びより教化とて傳
和尚ありとて揚列ハ船とて海より
よこれありとて風とて波とて船ハ
ひとありとて和尚念佛とて
おとありとて死とて後七年と

つと文海よりうらうらよはた後凡らげきう纏りも船り
 外にふりあふべし然よ目南よ喚はけり其時家觀
 めくありぬまば和尙より乃因よ之入経の以然よ又
 もろこしよ悔り色こりま行よ勝室四年日本の使も
 ろうよ静觀より業行亦又渡海乃其あり和
 尙於確年よりてぬけど然よ才子女四人ととも
 るい臥仗大伴宿祢古鷹が船よりりて東大寺よ
 來朝より續日多本紀元亨紀書佛法傳通記録起よふ
 一は三四書其外字見とるよ後觀勢多あり秋
 書曰天平勝室六年正月十二日太宰府より起
丑年十二月廿六日ヲ云四月乙未よ入傳通記録起ホ相將來の
威養記二月來朝ト云佛舍利三千粒阿育王塔様銅支提止觀云義文尙
 美徳子三斗晋王右軍が真行の書一卷威養記曰佛舍利
三千粒天石止觀

戒壇四徑那蘭陀寺戒壇土白檀手像此外徑論等將來ト云聖武天皇よ後
 勅よりて東大寺の戒壇院と云又松栴寺と云大
 僧都むらびよ僧正よ佐と大僧正ハ後よと云見
似法傳天平寶字七年六月六日よと云り通記通記
 七十七書又七十六歳佛法傳鑑真和尚は亦乃大藏
 經論乃文字あやまの西とありあつと云よ目南よ
 かぐさけ内暑毒眼よ入くあはらうりあうどあはら
 のありとあり又業種とありとありとありとありとあり
 て見りり事ころまは香代がはく由とありとあり
 了然りてるとありとありとありとありとありとあり
 事ありとありとありとありとありとありとありとあり
 う、其よありとありとありとありとありとありとありとあり
 あら給ハ相おつたといふありが父大臣軍よあり

給ひしよりさるる乃ちよりりて千人のおとあまの
 けりやあり後水和尙乃遺言の由り也唐招提寺ハ如實
 法哉義静亦住持とありや佛法傳通記より
 ▲中興用山覺盛和尙又名窮情上人四條院仁治年中
 宮中よめて菩薩戒と受けさせ後ひく三朝國
 師乃号と給り建長元年五月十九日とありと
 後深草院の御宇大悲菩薩也後乃位とて西ひ
 ける起

伝法傳
 ▲佛舍利三千粒通記 寺中一乃密持ありは舎
 利ハ鑑真和尙乃將來其未朝の時海路凡ありく
 密舟波よゆりまてんとんととてあけいられ
 ともやと作天と信とあはよ金鳥飛来く艦触と
 やゆんといけり鐵魚うりやあて擲も船もいり

多むかひなりとそありの事とてよあやうりなり是只
 龍神乃佛舍利とて一ころまよとあはめ佛法弘
 通の海路のまよふらへる所ありあはれとて則
 舍利と海よ入れぬまよとあはれとて日本
 土よはまより板根徳寺建立の後とあはれとて
 佛舍利といふ所の海産乃密とてんやとありとて
 えあまのトとて和尙大良乃名とてしとて真言法
 儀一三密則是乃深秘とてあはれとて龍神
 珠の海よ身とてあはれとて龍神とて化しは事なり
 水よ海とてあはれとて舍利とてあはれとて水
 と龍池とてあはれとて社代とて舍利の護神とて輪蓋
 龍玉とてあはれとて目毎乃午の時よ舍利乃日
 ひと信養今年

聖徳太子の御紀と云り是乃龍徳の化人ありと也通記
 ▲桓仁天皇二十年四月指輪寺に宮舎と云々後ハ
 てに律と儀と云々一宮分律一部七十卷疏一部十卷最嚴
 經一部八十卷涅槃經一部九卷大集經一部九卷摩訶
 般若經羅蜜經一部九卷在備前國 是ハ智藏物の
 十三町 在備前國 水田六十町 在越前國
 あり又實あり云々云々 和あり帝王文徳天皇仁壽三
 年十月田代百七番八町四段三百廿三歩傳法圓僧給
 ぬり文徳實徳あり云々人の戒律さうりの奉め
 事云々云々

指輪寺の南乃あり云々茶師寺あり

藥師寺 寺領三百石

茶師寺ハ天武天皇白鳳九年類聚國史又東塔銘等ハ 年又指輪抄ニ天智元年云

十一月甲辰夜也やまひありし時ハ天皇茶師
 如來法之り堂塔成とせんし神札ありて二百僧と
 傳養し給ひし一ふ忽よぬのうらまを給中日本
 紀よ思々云々云々此伽藍乃指輪と云々人云傳
 祖尚入定して龍宮の伽藍のやうなり云々一奉向を
 給る觀感ありして遠矣乃初定あり書云々云々も
 云々云々神道矣とあり云々云々天武天皇清和天皇乃
 云々云々御紀云々云々云々縁先帝の御遺勅云々
 云々云々天皇二十年十月茶師寺とありぬ日本紀云々
 元年書云々云々云々高市郡墨本よ云々云々茶
 師寺と号す云々後元正天皇應永二年云々云々
 致云々傳下致有象云々の二塔云々云々云々

の萬師寺是あり 延喜式 白鳳九年より延寶七年迄
九一十年又類老二年より八九四七十一

法堂

▲金堂乃萬師如來八天武天皇乃神祇十二夜神

觀音菩薩二軀 一軀八孝德天皇神祇 一軀八木尾天皇神祇 法萬師如來八

布郡本萬師より車ゆりて引きさるる七日紙經て

は寺よは紙經ゆりて繰起りあり又の祝よ萬師

寺乃ゆりよ金龜山といふあり萬師乃像を法

りしを武化よりゆりて法堂ゆりて造起しあり

利嘉美二年より西暦二月一日より七日迄より

とてあり今よ延喜式

▲法堂室ありて敷勝會法とてありきりてせを折敷

勝會八件繼律師といふあり法皇天皇長六年

六月廿一日は會法よりとてありて法皇國と稱する同

五月十四日勅許あり儀麻田乃寺田七十町と

乃會の料よとて給ふ 寂勝會 表白 翌年八月よりめ

てせりところあり 西史 又の祝三月廿一日より女

七日まで行ひゆり繰起りあり 仁的 天皇美和

年中よ宣旨ありて三月七日よりめて十三日

よとつる恒例とて延喜式 表白 又は會の儀師七布祿

料ハ緋二上綿め積毛袷布女端よりひり一合肉

よりとつるより 西史 抄よりゆり後花園院文

安二年災上の後ハ會退帳より 縁 固よ大殺表經

會毎年七月廿三日よりめて廿九日よとつる儀

式ハ延喜式よりあり又延喜式大徳の年毎よ

修せりきり萬燈會 叙 書り給めては三會の終

て名をそぞりなり

▲西院八合人親王元明御建立長元元年七月十二日
大北震よる起録

▲東院又東禪院ともいふ養老元年九月六日長元
親王乃由造立本寺觀音菩薩ハ孝徳天皇由造

建ち後雷火よそこふれく修補し之銘一統よ

て弘安二年三月十一日又修理あり棟木

備内親王元明天皇乃由あり養老年中之銘一統よ

遠天ともいふ起録堂ハ折あき極るゆゑなり

▲東院ハ天平二年三月よきて書今あり西塔各
十一丈六尺起録西塔ハ光仁天皇十一年正月雷火よ
焼失續日記再興の後長元一年八月八日よ又

炎上の後ハ再興もあり起録今ハ文殊堂ハ西塔乃由

あり孝徳天皇乃由乃由食堂年延律師の傳法院

その中修造を修果く師棟和尚乃由宏壯麗妙の樂

師の詞ぞ筆よゆるとする

▲鎮守ハ幡社ハ西を体長乃由朝野寺家の南

東取守依ハ幡菩薩勧字依傳して群載又体長の思と云

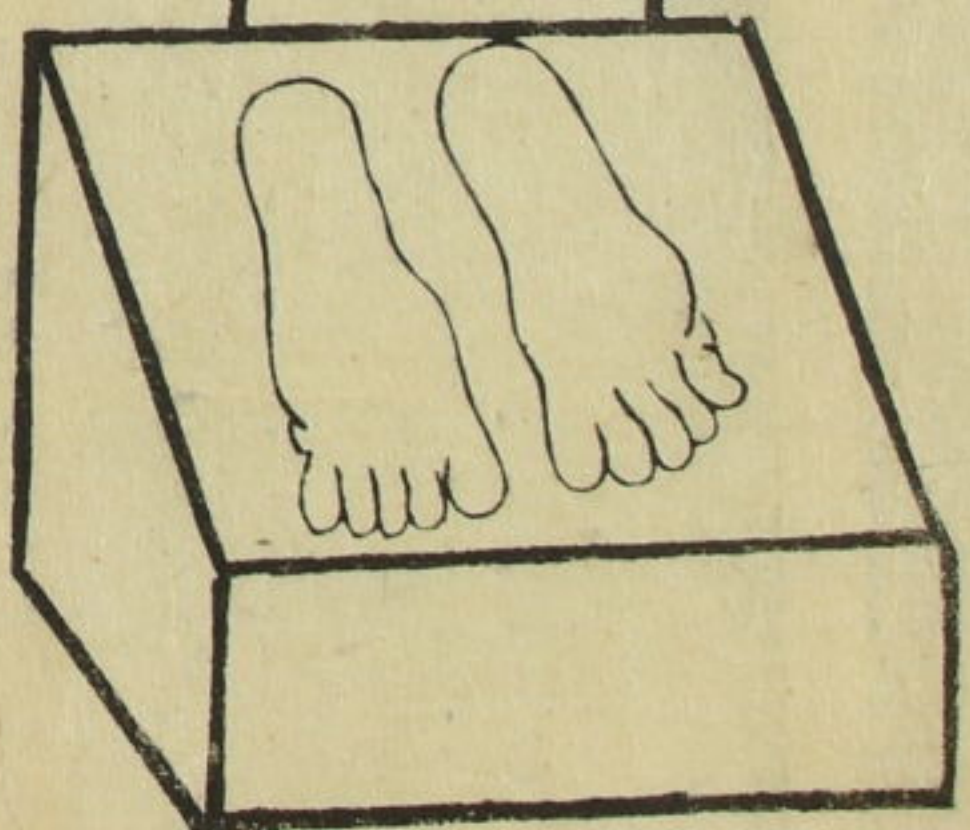
園よやありとてそつひり起録又体長の思と云

の身觀元年行教和尚大安寺ハ幡菩薩御起録

はとあり時志つくけし起録又今乃社ハ豊臣家起録

▲佛の石金堂乃由西の草むら乃起録

万葉の秘訣十七首あり



傳是形子輻輪相 穀輞相

具是與鱗相 金剛杵相 是跟亦梵王頂相 衆

蠡相の紋はるりほけりは石の華師乃像は遠立

の厨百餘はよりなるは傳是形とてしして丈六

乃像と誇はよりしと敬はありはとも立石の面

十七その内廿二乃秋三十あまの二乃くをいへ

はけり乃人のぬかりはぞとこれとをりつとてしは

後遺集よのそくそくそくよ明聖辰山階あり

あはれ傳はより記はけりくそくそく山階あり

寺より此一なる中とありん

▲いふへ八宗無學よりいへるも行基菩薩唯

識乃法門はひしうれ戒明相尚入唐の後於法相と

りてあそつとより当代まで法相宗ありて志意

と兼より又靈寶あり乃中よあ面乃黒筒 鼓

筒 是まいふ人天人あまよりて衆説とありて

▲面ありををぬりありてとそひひはるるるるる

の系よ衆の師傳士晴遠とひあそのあり運機樂と

ひあ衆として帝ははるるるるるるるるるるる

よはるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

は衆のあよるるるるるるるるるるるるるるるる

獲生して人よ傳へて後又うせよとのり骨子の上府
生来高とをひひる時遠が先組の舞人の家子還
成樂のありてあまうとさうとぬりおきてと若つとて室
代是とほくえりりるがまは南都の寶物ありて
ありとて中ゆくと割れありてわらうなりおきてもくえ
ありまるとも

▲真上の人王六十四代圓融院天延元年二月廿七
日徳堂一時のつありとありそれが中よ金堂一守ハ
神鎮礼宗為身と真よあがはる色ひとつた會の
清るともつたつたつたよ火とせよとく金堂はくぐも
ありり記書は熱切よわたり神徳ハ三河の徳師礼
宗ハ大和の徳師よるん記の宮前とつたりと三月
六日寅檢乃物使ハたがゆ源朝臣伊勢より同廿八

日一守と一守の役とて修達よ火記のより九ヶ國
よ宣下ありとよ奉浅深く寛和三年正月八日よ
ちのて極成つらつたそまより廿一年浅深く長和二
年よ成務も寺家ハ別高越禪大徳の修達あり
相又のまご徳堂成就とありよ永祿元年八月十三
日乃夜大風金堂乃上の重閣と吹おとせりり別高
年越津師修達してものより人王百三代後花
園院文安二年炎上よりその年極立乃儀式ありと
よどもとありつらつた教十年浅深く勸進帳
金堂と再身より又百八代後陽成院を長二年五月
廿八日越舞ち乃あふり乃若夫よわたりてつありとあり
若長のみ身具のより棟木の邊よありとて
やうちと成よある

春日山麓の舟業師ありしが乃池のくすねのへる慶
御在所

御在所その下流ありて備よやうとありたりと西
乃系とありたりと右系とありたりと左系とありたりと天平
感安元年孝謙天皇業師との宮より西の流に
御在所といはれりまうりて續日本紀あり又西
の家名法基とをせほひくやう乃西のまよあり
海とありと正統記よりありたりと右系とあり
色ひり乃右系とせおほり

勝間田之池

獻新田部親王歌一首

勝間田之池者我知蓮無然言君之賢無如之
右或有人問之曰新田部親王出遊于堵裡

御見勝間田之池感緒御心之中還自彼池不
忍嘆愛於時語婦人曰今日遊行見勝間田
之池水歌清々連華灼々可憐斷腸不可得言
爾乃婦人作此戲歌專輒吟詠也 万葉集
翻林採葉曰親王世は勝り大鬚とそあり
けり後るごとく戲よありあり

柞は池乃其所不分明古方柞は茂俊由入平維
徳可系集よ今相遠新田部親王大和國藤原
宮より西自遊遊して飯後之池へ我他由あり
所に安よ鴨伴卿作良玉集曰池流へ春あり
時けり之勝間田池乃後とありと云はれ則奉皇の
教師寺やひり池水後々後已よ精舎にあり
水乃之詠が事心其謂元帝王系圖曰白風

九年十一月依皇太后病遣某師是則被池乃流也
詞林 抄曰勝間田池とバ水終つ方うりし事と云
是の何とおぼむりの親王乃見後をい事某師あり
久より此池と云ん色知り又某師あり後も
えだの河内この池をい并むり心も書きあり
乃遠のあんぬい知人なりゆりいのみ寺乃近記
ゆりとぞうけ経の記とバ記をいふらむと傳
回部親王の天武天皇廿七皇子あり天平七年九
月よ薨りる云云文武天皇二年高市郡と云
うちとそそら進元正天皇親老二年よ流の郡
奈良より此池と云り

良玉 初瀬へはりきる小勝間田乃池流きて
朽もつるかむりき勝間田乃池と云は道安

佐藤頭伴折記臨水と云ふ題とて

勝間田乃池をいりる宮り或は柳のうけありて
乃池よ水が起る時人よりいへ勝間田乃池
清作と異名よひたりと云今案じうは
水ありきる也と云は

勝間田乃池よ水と云ふ事と云は勝間田乃池

云 隆月 云 秋枕

勝間田秋枕

勝間田乃池の橋れはももはたは世に由り
は秋の流ありあるもや又幾世も流ありあるも
あつとあり流へ

思見集 山や道乃流りとせりては流あり
は秋の羽書よ幾世も勝間田乃湯と云ふ

羅城門

門乃私ハ倭ヨ事世トムありら世ハ羅城門
行衰天正年中田の中よりいづ人の居
ゆり羅城門力派ありと云平藤宮の
り南よありとまり

鑑志和尙来乃時云くは西よとん
又天平十九年六月西乃めりもありて作
まると我續日本紀

藥園宮

舊地ハ那山内ヨありハ能きの所伐
ありと云うはく久々同町ヨあり今
室乃云こまありけ西の舊園ヨありと云

け西ハ天平勝宝元年ノ南乃藥園の新定
大掌今をどとあひ給ひしつ續日本紀
より南よありとまり

植槻道場

侍町ヨ海ヨありと云ふはま
植槻乃八幡と云ふはつる観音堂一宇あり

植槻乃道場ハ船岡二年十月海云秋の
と海ヨありと云ふはま給ひしつ西あり
高代安靈の観音菩薩ハ本像ありて序前大臣
致乃傳志度寺乃観音ありと云ひはく
和洞二年より延寶七年まで凡九百七

て唐氏^{たうし}温^{おん}も心^{こころ}ありこそきつうめけし人のよきぬぬ
おくちをさせたりあらはあふこそん大慈^{だいじ}菩薩^{ぼさつ}の
まへよも深^{ふか}ありをくんまきばさのふとせこのはる
維^{まな}と大慈^{だいじ}乃^の履^りのうへよりてありきとぞ
さうとくこそゆきくたぬめてて記^き洞^{どう}像^{ざう}もあき
と捨^すふこそちるむけき

釈書
取意

美濃^{みの}山^の二^に基^き陵^{らう}

植^え櫨^{づい}の南

山^の代^の乃^の此^{この}代^のの^の陵^{らう}もあきとせよ
ゆきあり

犬塚^{いぬづか}

いぬづかの聖^{せい}徳^{とく}太子^{たいし}の白^{しろ}雲^{うん}丸^{まる}とめさけいぬ代
はたきくふあり郡^{ぐん}山^のもあり太子
偽抄そのあきありよ
はたきくふありゆきとせよ

美濃^{みの}山^のよりとるゆりいかに小泉^{こいづみ}村^{むら}乃^の南^{みなみ}のちのき
よ赤^{あか}檜^ひ乃^の基^きあり長^{なが}隣^{りん}ち乃^のありあり

赤檜^{あかひ}基^き

赤檜^{あかひ}の物部^{ものべ}守^{まも}屋^やと社^{やしろ}より人^{ひと}ありけりハ日本
紀^きよから

松尾^{まつお}寺^{てら} 小泉^{こいづみ}村^{むら}の押^{おし}乃^の山^の

松尾^{まつお}寺^{てら}

延喜
式

西^{にし}松尾^{まつお}寺^{てら}又^{また}山^の号^{ごう}ハ補^ふ陀^た洛^{らく}山^のはゆの

こころ補^ふ陀^た洛^{らく}山^のはゆの今^{いま}人^{ひと}親^{おん}王^{おう}乃^の沖^{おき}建^{けん}立^{りゅう}

ゆりて玉林親^{おん}王^{おう}乃^の沖^{おき}建^{けん}立^{りゅう}り十一^{じゅういち}面^{めん}觀^{くわん}

自^{みづか}在^にの像^{ざう}と人^{ひと}維^いのあり

社^{やしろ}あり寺^{てら}徑^{かみ}乃^の僧^{そう}けい乃^の山^の城^{じやう}玉^{たま}松尾^{まつお}と同^{どう}神^{かみ}と

山^の乃^の神^{かみ}ありハ大^{おほ}己^{おの}考^{かう}神^{かみ}の亦^{また}大^{おほ}年^{ねん}の神^{かみ}乃^の

子^こ大^{おほ}山^の乃^の神^{かみ}ありハ乃^の海^{うみ}乃^の高^{たか}乃^の神^{かみ}松尾^{まつお}

乃^の神^{かみ}ありハ乃^の海^{うみ}乃^の高^{たか}乃^の神^{かみ}松尾^{まつお}

よき... 新日本紀より

矢田寺 杉尾寺の北

金剛山寺 俗に矢田寺と云ふ 堂塔あり 本

寺ハ地蔵菩薩あり 天長天皇乃勅新開山ハ龍

僧正 起僧正ハ敏明四年七月よりあり 了

玄奘三藏ハ唯識と云ふハ海朝乃後白眉

三月僧正より 書 抄地蔵菩薩ハひくは寺ハ

満兼上人と云 戒行やんども死ひるとあり 小野

と仰檀乃りよりより 堂ハ心あり 凡人

身ハ朝廷よりあり あり あり あり あり

よそあり あり あり あり あり あり あり

乃世の成生 鬼室一 其の鬼より あり あり

戒とらげさせ 鑑少人あり あり あり あり

と云陰府ハ戒師あり あり あり あり あり

友ハ戒業純淨乃人あり あり あり あり あり

よびよこれ 別當の上人乃り あり あり あり

事侍りとり 上人あり あり あり あり あり

鑑當より あり あり あり あり あり あり

鑑王より あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり

よそらありそのひあまはもや身よ三衣とゆと
 ひるうらうらあよあうらうとては我の是地獄
 菩薩あり生乃若よりりてく乃らうとて
 うらあはまどの雲の生はまらあななり
 汝安婆世世よりりて我の縁とひとがめよ又
 くの若とらうと事とくま上人持礼して立後
 ららうと真使うらうなり乃粒の川と上人よなる
 相安婆世世よりりて乃粒とひらきるよ白米
 みらうらうらうとらよまらうひくまはるかに生
 涯とやま書 叙 けうは地獄と遠とんとそ
 船工とゆと記は建バ化人乃らうりてはり
 若とそ長六尺今まを若の地獄と事なり 起 叙
 上人のりと乃若と後まの心集とるくまらり

後ハ満米上人とぞり記 叙

▲小野 隆ハ拳守の具仁壽三年小年を寺中七

長六尺二寸破軍望乃化人といなり 小野 系圖

東明寺 夫田ちの死

瑞嶺山東明ちハ吾人親王乃御建ちやう妙集と安 墨 ちり

河上陵 東明寺のうらう

小和村乃ある後又ある地塚とたし一とれ あり富緒川の川上あまはりあまらやゆと

乃陵あらんり

川上陵ハやゆと乃玉添下郡あり 贈 皇 族 藤 原 氏川上乃陵と延喜式よりきり

西大寺 小和村の地寺領三百石

西大寺ハ孝徳天皇乃勅元天平勝宝元年より
下御り十七年於て天平神護元年より
ありぬ拾芥孝徳天皇ハ高野天皇より生り死
さるべき野寺より又仁明天皇ハ高野より
あがめさせ給ひて塊壘天皇よりおのち高野
史開山ハ釈ノ常勝也也武宗流より高野より
その後実教僧都はちよはして三福宗とひらめ
能きしよりおのち傳はり伝法僧常勝ハ人王六十
二代漢賊天皇弘仁六年より卒より實教ハ八
十代文徳天皇初衡三年より卒よりお僧乃
傳ハ新書二三巻よありと
▲四天王ハ長七尺乃洞像あり天平神護元年よ
の作るべき中ハ僧長天一軀力きしとありと

あり給ひて七尺よおのち高野天皇ハ慶
行幸あり朕ハ切敷よりして高野如身と傳はり
傳道ありは洋洞とよみよんよ高野よりあり
ゆきみお像とあり給ひて高野ハ高野寺と
傳あり事ありとありひ給ひて高野寺ハ洋洞
とあり給ひて高野寺ハ何乃ゆきみとあり高野寺
ハゆきみとあり給ひて高野寺ハ高野寺とあり
乃四天王ハ高野寺ハ

▲觀音堂ハ延寶二年よ建立は丈六乃觀音ハ
高野ハ高野院乃神祇ありて高野二年於て給
ひて高野寺ハ高野寺とありて高野寺ハ高野
寺ハ高野寺とありて高野寺ハ高野寺とあり
寺ハ高野寺とありて高野寺ハ高野寺とあり

像（一）とて人々を拘り内もさると（二）也（三）曰（四）
 ▲愛深堂は愛深聖王、他人の恨をも内通はる
 弘仁四年七月廿日蒙古降伏乃由あり（一）勅
 使見茲の西大寺よむじひくをやく降伏の法と總
 して人死より毎三よおのづり降もるよあやくして真正
 菩薩の男山八幡宮ありて七處七檀力心あり
 儀摩乃よりい免よもちり鈴乃懸六山けり（一）傳
 僧八百人が修法乃声乃の毛筆ててまてけり（二）海
 東の戒冠よ鋪矢面とけりて（三）起り御よ太宰府（四）
 金津ありて異賊と封治さるれみ東野美乃持
 相の夫らとくく（一）ざり（二）後には明王よ持相の
 夫ありとむとらやけ時乃僧ありとむ（一）修法乃（二）
 三卷男山八幡宮よ奉納ありとをも（一）同（二）

▲塔乃礎（一）礎乃あり而（二）より（三）は（四）ありとむ
 寶龜元年二月西大寺東塔乃（一）より（二）人の衣りり
 一丈余ありと九尺ありと東大寺のひり（一）飯盛山
 よりとあわゆる（一）家より引（二）さる（三）が（四）時（五）より（六）鳴（七）ありありあ
 やしみおほし（一）あさる（二）より（三）室（四）あり（五）より（六）と（七）あ（八）ら
 情（一）生（二）く（三）く（四）中（五）靈（六）ありてとそら（七）けり（八）禰（九）ありん
 とり（一）あ（二）ら（三）バ（四）や（五）記（六）ありとる（七）記（八）とて（九）あ（一〇）ら（一一）く（一二）乃（一三）新（一四）と
 つ（一）火（二）と（三）け（四）酒（五）と（六）そ（七）ら（八）を（九）け（一〇）り（一一）に（一二）三（一三）十（一四）名（一五）よ（一六）そ（一七）り
 決（一）り（二）碎（三）破（四）して（五）所（六）々（七）と（八）ありて（九）後（一〇）の（一一）道（一二）乃（一三）より（一四）
 よありきり（一）の（二）符（三）ありとむ（四）て（五）帝（六）の（七）あ（八）ら（九）み（一〇）り
 海（一）の（二）乃（三）を（四）ら（五）つ（六）よ（七）あ（八）ら（九）め（一〇）と（一一）序（一二）礎（一三）成
 ひろひ（一）淨（二）地（三）よ（四）あり（五）の（六）記（七）を（八）きり（九）て（一〇）
 菊乃（一）より（二）よ（三）け（四）衣（五）ありと（六）新（七）書（八）よ（九）あ（一〇）ら（一一）く（一二）あり

本紀今東

後日

▲真正菩薩の懺ハ真院とよ西大寺真觀二年
 乃回祿より後く二百七十八年滅經て嘉禎二
 年真正菩薩文よき新く申與用基とりの縁
 としてハ觀音恩山上人とぞり侍りて正安二年
 壬七月三日真正菩薩と謚一經ひき帝王御
 與正菩薩八年十一ありて密法とよ色醍醐山觀
 賢乃宝よ入てうらあり一秘教とよゆびりり
 所の鑑志の依とよきひく律戒とよのゾまつよ
 世よ戒師やあうらりせん嘉禎二年同志四人
 之清うらりひとそそ、具足戒乃正觀とまう
 け律儀乃紀經とよき後ふそれより西大寺
 一居して戒法さうりあり寛元三年法華とよ
 文選ハ沙弥戒とよけきり進建長元年は同ち

乃慈善寫り大比丘戒とよけきり新叙それより
 けりは毎ちハハ寺乃ありとぞあり縁又徳
 由ハ教生禁断乃とそ奉一千三百六十ヶ所
 叔又文應上皇真正菩薩とよき也海也給ひて
 宮中よめりて菩薩の大戒とよけり給ひ叙
 祀とちめ戒とよけり人九万七千六百人未寺
 五百九十余ヶ寺起縁正應三年八月廿六日西大寺よ
 とりりとして正年九十叙
 ▲道成會ハ三月十五日儀式延喜式よあり山門の
 比より終けりやあうらり代毎八月十八日より
 七ヶ日光明言と勅修と是ハ文永年中より
 ちりまりけり

▲突上ハ義和十三年十二月十一日續日本又真觀

乃大目でりよ西大寺の綱がらうとあけおほさう
 まより後出がらうとありあうまきさるより貞觀の
 官符よのぞうまきさる 帝王編年又貞觀二年よ美上
起 文龜年中美上 起 再真乃正代しとぞ
 ▲豊心丹信よ西大寺とよけち傳來乃妙方より武
 人曰西大寺豊心丹ハ衛師道宣よりあり永徽元
 年よ昆沙門天王より補心丹乃方とらまきさる
 今和曆とあけりとは佛祖統記よらまきさる西大寺
 豊心丹是よしてこそ傳らめ道宣乃傳方衛院
 よまきさるといへり御も醫書よ補心丹のせ
 て人是とまきさる豊心丹ハ別方と絶ゆえ傳方
 武人よりまきさるハ島山乃あふりいあ人河内紀傳
 乃あまと領ぞらまきさる時よりあり乃秘方とぞい

りとの経書しよまきさる心丹乃方とぞらまきさる
 島山乃家の秘方とあまきさるハ後西大寺乃大元
 軍場よ心のまきさる記ありけ切勲よまきさる心丹
 乃方武夷身より記三百石とぞまきさるハ乃まき
 さるハ記祿島山の家よりありと我関傳傳
 記
 ▲西大寺乃柳乃依ハ寺より東をまきさる乃あり
 とらまきさる

西乃大寺の柳城ハあま
古今 あまきさるハ白雲とまきさる春野
夫木 ありとも西の大寺むかまきさる神ハやりのせ
 西隆屋寺
 西隆屋ち乃依ハごらまきさる西大寺の乾よ

僧正
 通昭
 殿南門
 院大捕

西階尾寺の高野天皇乃の御創西大寺乃の僧乃
法衣と澁澁乃のありと也 三代 實録

秋篠寺

西大寺乃北寺領百石真言宗

秋篠寺の茶師如來と安室と光仁植成帝乃勅

記香水 開山の善珠僧正と或宗流よりくは

僧正の唯識宗流由ぶは心乃の心平と也

因明論よりひくは海ありてはあく期ありと延

曆十六年四月よりとより年七十五 叙書

香水の寺内より丹あり丹好りの祠とありて

鹿とより常より人なる奉法元乃のそと也成

ゆるよ山嶽玉小栗栖乃常曉阿耨梨より

よより花梅より大徳元照より太元師乃靈像

秘法代りけは元海乃後小栗栖乃法林より

しは法代りともひか給ひ 叙書續日一

はやうの如來よりあり曉乃あり代りひか給ひ

寺乃より大元明王乃の純像より 常曉の

いよよりけり給ひ 後七日の法修法

ハ常曉阿耨梨とあり 香水記より

とて神依法乃監觸ハ兼和元年弘法天師乃

より肉道場よりありて 靈中より

ては曼陀羅と修法とあり 奉國あり

由は正月一七日代り 鎮護

國家五穀豊饒乃あり 後七日の依法

是あり 續日本後

是あり 紀叙書

是あり 後大元

源らまゝしよ兼和七年の勅行あり後日本恒
平家常曉乃事新書よし
物語常曉乃事新書よし
▲當寺の保延元年六月の英上を後身具あり

秋篠

勲字后所集よ平群郡とあり流の郡

五二

草根

長元秋の生駒ありやあびらん秋篠の里よなる

伴駒山のよなるぬらうのた雲よ身とありた里よ

けわは流氷乃おれあり 卯山の里とよ

外山里

新古今

秋の卯山乃里や町るん伴駒の雲よ

高山八幡外山里のちるり乾

西行法師

添下の郡高山の八幡宮の聖武天皇を
廣懐乃八幡菩薩と東大寺よむ久を
けは西よ志ざらうとせ給ひ
よやらうと今よありと武元のもの
おはつらうけは耐乃さへ續目
その親よ八幡社と平群郡よ
傳是と西よ人たけ西よ平群郡
いやとらう

村園墓

村園の墓や海下の郡あり贈正一位安
信命婦乃墓と延喜式よあり

延喜式

大田座 小六座

矢田坐久志玉比古神社二座

菅原比賣神社二處

菅原神社

菅田神社

伊射奈岐神社

伊紀神社

登祢神社

添御縣坐神社

和列舊跡函考卷五終

